

やんばる野生生物保護センターの最近の話題

カエルツボカビ感染調査

11月28日の地元新聞各紙の朝刊で大宜味村と国頭村に生息する野生のシリケンイモリからカエルツボカビのDNA(遺伝子)の断片と同じものが検出されたとの記事が掲載されました。環境省では、海外でカエルなどの両生類に対して致死率が高く、深刻な影響を及ぼしているとされているカエルツボカビの野外における感染調査を進めています。この記事は、その現状報告に基づいて書かれたものです。

検出されたのは、遺伝子のごく一部で、野外にカエルツボカビが存在する可能性は高いものの、確実に同じものであるとは断定できません。また、カエルツボカビにはいくつかのタイプがあるらしいことが分かってきましたが、それらが国内のカエル、イモリなどに病原性をもっているのかどうかはほとんど分かっていません。現在のところ、野外において両生類の大量死亡や継続した死亡等は確認されておらず、カエルツボカビ症を発

症していると思われる情報は得られていません。現時点での知見では、従来どおり、新たなカエルツボカビが野外に侵入することを防いでいくこと、野外に存在が確認されたカエルツボカビについて不用意に広めないようにすることが必要です。

両生類を扱っている方は、今までどおり、飼育下の両生類を野外に放逐しない、水槽内の水や飼育資材は十分に消毒し適正管理を行う、異変を感じたら相談窓口連絡する等の対策に引き続きご協力をお願いします。

また、やんばる等のフィールドに調査や自然観察等に入る方は、可能な範囲で靴や調査器具等の消毒に留意していただき、カエルツボカビの蔓延防止にご協力をお願いします。

野外でカエルが大量に死亡しているなどを発見された場合には、やんばる野生生物保護センターまでご連絡をお願いします。



コラム 【やんばるのカエルたち】

やんばるにはもともと10種類のカエルが棲んでいました。現在は、それらに加えて人の手によって持ち込まれたカエル(シロアゴガエルなど)が数種類棲んでいます。いわゆる外来種です。日本全体で39種類のカエルが棲んでいることから(外来種を除く)、やんばるではその約26%が見られることとなります。面積では日本全体の0.1%にも満たないやんばる(北部3村)にとっても多くのカエルが棲んでいることがわかります。10種類のカエルのうち、ナミエガエルとハナサキガエルの2種は世界のなかでやんばるにしか棲んでいないカエルです。ちなみにナミエガエルは安波に今年オープンした「やんばるの学びの森」のマスコットキャラクターになっています。

ニュースレターに関するお問い合わせはこちらへ

環境省やんばる野生生物保護センター
〒905-1413
沖縄県国頭郡国頭村字比地 263-1
TEL:0980-50-1025
FAX:0980-50-1026
e-mail:RO-YANBARU@env.go.jp

やんばるニュースレター

発行：環境省 やんばる野生生物保護センター

No. 1

Yambaru Newsletter

2007年12月
発行

ニュースレターを発行します

環境省では、平成8年のSACO(沖縄に関する特別行動委員会)最終報告において北部訓練場の過半が返還されることが合意されたことを受け、返還予定地を中心とする周辺地域も含めた重要な自然環境を適切に保全するとともに、自然環境を活用した地域振興が図られるよう、やんばる地域を国立公園(保護地域制度のひとつ)としていくことなどについて検討しています。

これから、その検討状況について、随時みなさんに情報提供していくため、ニュースレターを発行することにしました。内容についてご意見やご質問があれば、やんばる野生生物保護センターまでご連絡ください。



国立公園に関する検討会を開催します

今年度、地域の考え方や専門的な知見を踏まえながら更に検討を進めていくため、「やんばる地域の国立公園に関する検討会」を設置し、12月6日に第1回検討会を開催します(今年度3回開催予定)。

検討会では、「やんばる地域の国立公園は何を守り、どのような利用を図る国立公園とするのか」という国立公園を検討していくにあたっての基本的な考え方をまとめることとしています。これらの検討結果を踏まえ、来年度以降、国立公園として考える範囲など具体的な内容について地域の皆さんと協働して検討を進めていきたいと考えています。

検討会の様子は、このニュースレターを通じて地元の方々にお知らせしていく予定です。また、シンポジウムや説明会などを開催し、皆さんの意見を直接お聞きしたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

- (検討委員) ※学識経験者は五十音順
- 大島 順子 琉球大学法文学部准教授、
国頭村環境保全型観光推進アドバイザー
 - 桜井 国俊 沖縄大学学長(座長)
 - 鹿野 久男 財団法人国立公園協会理事長
 - 玉沖 仁美 沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部推進アドバイザー
 - 富川 盛武 沖縄国際大学産業情報学部教授
 - 仲原 弘哲 今帰仁歴史文化センター館長
 - 西平 守孝 名桜大学国際学部教授
 - 横田 昌嗣 琉球大学理学部教授
 - 上原 康作 国頭村長
 - 島袋 義久 大宜味村長
 - 伊集 盛久 東村長

やんばる地域の観光のあり方を考える調査を始めました

やんばる地域が、その優れた自然資源を活用して持続的な発展をしていくためには、どのような地域の姿がよいのかについて検討をしています。地域の皆さんと一緒に考えていく必要があることから、調査の一部を「やんばる国頭の森を守り活かす連絡協議会(CCY)」にお願いしながら進めています。

この内容についてもニュースレターやシンポジウムを通して情報提供をしていきます。



ワーキンググループでの検討の様子

イベントのお知らせ

ノグチゲラ発見120周年記念講演会 「ノグチゲラの120年とこれから」

やんばるの森にだけ生息するキツツキーノグチゲラー。今年2007年はその発見から120年の記念すべき年です。これまでやんばる野生生物保護センター自然保護専門員としてノグチゲラの調査を実施し、現在も独立行政法人森林総合研究所九州支所の研究員として調査を続けている小高信彦氏を講師として招き、記念講演会を開催します。

講演会では、環境省が平成11年より続けてきた生態調査からわかってきたことを中心にお話頂きます。皆さんのお越しをお待ちしています。

日時: 12月15日(土)

18:00~20:00

場所: 道の駅「ゆいゆい国頭」
多目的ホール

主催: やんばる自然体験活動協議会
共催: やんばる野生生物保護センター
参加は無料。事前申し込み不要です。
お問い合わせはやんばる野生生物保護センター東恩納まで。



ノグチゲラ(メス)

やんばる野生生物保護センターの最近の話題

野生動物の交通事故にご注意下さい

これまで度々新聞でも取り上げられていますが、今年はヤンバルクイナの交通事故が激増しています。昨年は13件で過去最高を記録しましたが、今年はこれを大きく上回る23件が発生しています。例年4月から6月までの繁殖期に事故が集中していますが、今年は過去に2例しか報告がない8月に7件発生したことが今年の大きな特徴です。事故が集中する時期はありますが、年間通じて発生しており、11月9日にも県道70号線で事故が発生しています。

また、交通事故はヤンバルクイナだけではなく

■2007年ヤンバルクイナ交通事故発生地点(23件)
(2007年11月30日現在)



ません。今年はノグチゲラの交通事故が発生したほか、11月23日には、沖縄島、奄美大島、徳之島だけに生息する日本最大のネズミーケナガネズミーの交通事故が県道2号線で発生しました。事故はいずれも県道2号線と安田以北の県道70号線で発生しています。これらの道路を走行される際には特にご注意ください。

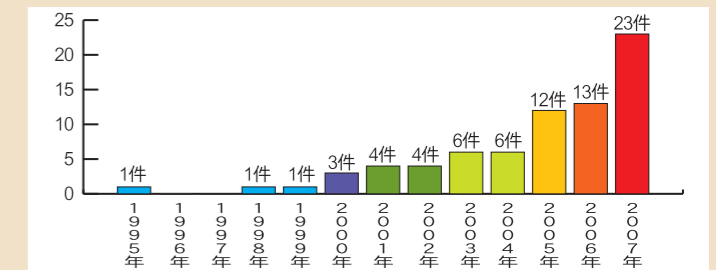
人にも野生動物にも優しい運転をお願いします。

(※)事故件数は報告される数だけですので、実際にはもっとたくさんの事故が発生していることが予想されます。

■ヤンバルクイナ交通事故月別発生件数(生存含む)
(2007年11月30日現在) (単位: 個体)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
1995年						1							1
1996年													
1997年													
1998年						1							1
1999年					1								1
2000年					1	1				1			3
2001年						2							2
2002年			1		1				1			1	4
2003年			1		3	1		1					6
2004年					5	1							6
2005年					2	4	5	1					12
2006年	1		1	2	3	3		1			1	1	13
2007年(今年)				1	4	7	2	7	1			1	23
総計	1		3	5	22	22	3	9	2	1	2	4	74

■ヤンバルクイナ交通事故年別発生件数(2007年11月30日現在)



ヤンバルクイナ



ケナガネズミ